

お取引先さま各位

カカオ・チョコレート週刊ニュース 21号

2012/10/22 発行

株式会社 立花商店

生田 渉

お世話になります。カカオ・チョコレート関連のニュースを前週の出来毎の中から注目ニュースを5本程度ピックアップして、発行しています。カカオやチョコレート中心に取り扱っております弊社と致しましては、広く関係者の方々に読んでいただけるように、少しずつでも有益な情報をお届けできればと考えております。宜しくお願い致します。

1、ロンドン、NY 両市場とも続伸＝予想上回る圧砕統計で(10/19)

19日のロンドン、NYのカカオは両市場とも続伸して引けた。

第3四半期の米カカオ豆圧砕統計は前年同期比 2.19%減と、予想ほど悪くない内容だったことからニューヨーク市場は続伸し、一時約3週間ぶりの高値を付けた。事前予想は3～10%減だった。

マレックス・スペクトロンのジョナサン・パークマン氏は「予想外の圧砕統計がセンチメントを下支えしている」と述べた。

ニューヨーク市場の12月きりは、一時2498ドルの高値を付けた後、前日終値比51ドル(2.1%)高の2489ドルで終了。ロンドン市場の12月きりは39ポンド(2.5%)高の1614ポンドだった。

2、北米第2四半期カカオ磨砕数量、前年対比2.9%減少も予測より低い下げ幅に(10/19)

四半期ごとに発表されるカカオ豆の磨砕数量(チョコレートの主原料の為、チョコレートの需要の指標となる)が北米市場では第3四半期は前年対比で下落したものの、事前の予測よりは少ない下げ幅になったとNational Confectioners Association(NCA)が木曜日発表した。

北米の第3四半期のカカオ磨砕数量は、前年対比**2.9%減となる12万1,890トン**となった。

この下落幅は、事前には多くのアナリストが、3～10%の下落幅なるだろうと予測していた率よりも僅かに少ない下げ幅となった。

今週前半には、European Cocoa Associationも第3四半期のカカオ磨砕数量を発表しており、第2四半期に引き続き急激な落ち込みとなり、前年対比で**16.2%減となる、31万6,676トン**となった。(以下に関連記事)

また、今週はCocoa Association of Asia(CAA)も磨砕数量を発表しており、ほとんど**前年並みの14万3,659トン**であった。(以下に関連記事)

北米の磨砕数量の調査の統計の中には、バリーカレポー社、ハーシー社、ネスレ社、ADMカカオ、ブローマーチョコレート社、(北米)マーズチョコレート社が含まれている。

3、アジアの第3四半期カカオ豆圧砕高、前年と同水準＝CAA(10/16)

Cocoa Association of Asia(CAA)が16日ウェブサイトで公表した2012年第3四半期の同地域のカカオ豆圧砕高は、14万3659トンとなり、前年同期(14万3463トン)と同水準だった。

この統計は、マレーシア、シンガポール、インドネシアの圧砕高をまとめたもの。3カ国は、世界の 카카오豆圧砕高の約12%を占めている。

4、欧州の第3四半期ココア圧砕高、前年比16.2%減=ECA発表(10/17)

European Cocoa Association (ECA) の16日の発表によると、2012年第3四半期の欧州カカオ豆圧砕高は、前年同期比16.2%減の31万6676トンと、2期連続で大幅に落ち込んだ。第3四半期としては05年以来の低水準。

減少は、アナリストとトレーダーの見通し(前年比15~20%減)に沿った内容だった。この数値には、前年同期の統計には含まれていたドイツの圧砕業者2社の圧砕高が入っていない。

欧州のココア・トレーダーらは、チョコレート需要の鈍化とココア圧砕の利幅が薄いことを受けて、大手圧砕業者が先月、カカオ豆を転売していたと指摘した。欧州経済危機はチョコレート需要にも打撃を与えている。市場調査会社ミンテルの推計によると、12年の世界のチョコレート市場価格が前年からほぼ横ばいの845億ドルとなる一方、西欧では約5%下落する可能性がある。

弊社の視点：なぜ欧州の磨砕数量だけの落ち込みだけが激しいのか？

詳細の数値分析はまだ出来ていないが、肌感覚で、欧州の磨砕数量の減少は単に、チョコレート需要の減退を示しているものではないと考える。

確かに、欧州の景気は悪く、チョコレートの消費にも悪影響を及ぼしているが、その下げ幅が=15%以上の減少と見るのは多すぎる解釈であろう。

以前に特集した市場調査会社のミンテルのレポートでも需要の下げ幅は5%レベルと見込まれていた。

このギャップはどこに起因するのか、要因の一つは、原産地側(ガーナ、コートジワール等)が欧州の磨砕業者からカカオ磨砕数量のシェアを奪っていることになると考えられる。独立系の企業が磨砕業者ではなく、大半がグループ企業内で両方に工場を所有する大手グループもあることから、生産地点の移転減少が起こっているとみなすことも可能である。

また、独立系の新しい磨砕業者の中には、非常に勢いのある会社が存在し、欧州の工場がカバーしていた地域である、トルコ、東欧(ロシア、リトアニア、エストニア、ウクライナ)などにカカオ生産地の磨砕業者が販売シェアを伸ばしているという背景も影響していると分析している。

第2四半期から第3四半期の間、ガーナを数回訪問したが、欧州のような生産調整など行っていないし、24時間稼働で生産している工場も多い。

数値的な分析が可能であれば、今後、この紙面にて取り上げさせていただきます。

5、ドイツ第3四半期カカオ豆磨砕数量29.92%減少(10/16)

ドイツの第3四半期のカカオ豆磨砕数量は前年対比で29.2%減少の86,708トンとなったと the association of German confectionery producers BDSI が発表した。但し、BDSIによればこの激しい落ち込みの一部は統計調査対象から2社が外れたことも大きな理由であると説明した。

6、マレーシア第3四半期カカオ豆磨砕数量は前年対比2.8%上昇(10/16)

Malaysian Cocoa Board が 16 日に発表したマレーシアの第 3 四半期のカカオ磨砕数量は前年対比 2.8% 上昇となる 73,454 トンであった。

しかしながら、第 3 四半期の磨砕数量は第 2 四半期と比べると、1.4%の減少となり今年度は対前四半期という観点でみると、2 期連続でマイナス成長となっている。

マレーシアはアジアで最大のカカオ磨砕数量を誇っている。

7、ネスレ社の売上成長率は当初予測よりも鈍化傾向も前年対比では堅実に成長 (10/18)

キットカットや Maggi スープなどの製造で知られているネスレ社の 9 カ月終了時点での売上高成長率は半期 (6 カ月) 時点での成長率 6.6%と比較して若干ペースダウンし、6.1%成長となったと発表した。

尚 9 カ月終了時点での売上高は、671 億スイスフラン (≒ 5 兆 7706 億円) となった。

この背景を『発展途上国での流通環境が引き続き難しい状況にある』と説明した。

世界最大の食品グループのネスレ社は今年度通年では 5-6%の売上高成長率は確保できる見込みとしており、ただ、留意点として現在の原材料コストの上昇が原因で若干の売上減少があるかもしれないと説明している。

8、ブラジルカカオ着荷数量、前年対比で 40%上昇 (10/18)

ブラジルの主要なカカオ生産地からの港湾倉庫への着荷と輸入されたカカオ豆の合計が 5 月 1 日～10 月 14 日までの合計数量で前年同時期対比 40%上昇となっていることがバイア商業協会の統計データにて判明した。

長年ブラジルのカカオセクターについて調査をしてきたバイア州のカカオアナリスト・トーマスハートマンによれば、以前の状況に続き未だに港倉庫は混雑の影響で週間の納品ペースは制限されており、仲介業者はまだ多くのストックを抱えているようだ。

2011～12 年集荷数量 5 月 1 日～10 月 14 日

	先週	合計 (60kg 袋)	合計 (トン)
Bahia	50,236	1,723,209	103,392 トン
Other states	16,258	708,252	42,495 トン
Other nations	0	163,119	9,787 トン
Total	66,494	2,594,580	155,674 トン

2010-11 年集荷数量 5 月 1 日～10 月 14 日

	先週	合計 (60kg 袋)	合計 (トン)
Bahia	24,964	1,294,687	77,681 トン
Other states	14,439	481,064	28,864 トン
Other nations	0	83,973	5,038 トン
Total	39,403	1,859,724	111,583 トン

特集記事： カカオ密輸業者はガーナのカカオ価格での販売に注目（10/18）

ガーナの 2012/2013 の新シーズンの価格は周辺国の密輸業者に魅力的な環境となり、2011/2012 にコートジから密輸されたと見積もられている 5 万～7 万トン以上の数量が密輸される可能性がある。

コートジと隣国ガーナのカカオ買付け価格の大きな値差が、これまでコートジの生産数量の統計を歪め、世界最大のカカオ生産国から大事な収入を失わせる密輸を加速させる状況となっている。

先週、ガーナはコートジに引き続き新シーズンのカカオ買付け価格を発表し、コートジの 725FCA(1.43 米ドル/kg)よりも 25%高い、もしくは 180FCA(0.36 米ドル/kg)高い価格で生産者からの買付け価格を設定した。

以前は両政府とも密輸の件については公にするのを嫌がってきたが、今回、ガーナの財務大臣は今シーズンのガーナのカカオ価格が密輸を誘発する可能性が高い事を認めた。

西アフリカは、世界のカカオの 75%近くを占めている最大の生産地域である。

現在の主要なカカオの市場価格は、3 カ月ぶりの安値付近のレンジを上下しており、この価格がガーナだけではなく、トーゴやリベリア、シエラレオネ等他国にもコートジ産カカオ豆が流出する可能性を拡大させている。

『今年は、コートジの東側で栽培されているカカオ豆はほとんど全量がガーナへ密輸されるんじゃないかな。だってコートジの輸出港まで運搬するコストを考えてみるよ』ガーナとコートジの国境から 8km 程コートジ側に入った地域で活動している仲介業者は言う。

『この場所からアビジャンまでカカオを運ぶのが難しいし、ガーナの仲介業者は既にここに買付けに来ているよ』

2012/2013 シーズンはコートジ政府が、カカオの生産者買付け固定価格を発表した。これはこれまでコートジのカカオ産業が 10 年以上継続していた自由取引を終了させ、生産者への収入を増やし、農家自身が老朽化が進んでいるコートジのカカオ農園への再投資を促す狙いがある。

『コートジからの流出するカカオ豆の数量は過去最高になるだろうね』欧州のカカオトレーダーは言う。

『以前、20 万トンまで国外に出たのを見たことがあるが、今年は必ずそれ以上の数字になるね』

2011/2012 シーズンはコートジから約 5 万～7 万トンのカカオが密輸で国外に流出したと見積もられている。

『ガーナで発表されたばかりのカカオの価格は、我々が考える以上にガーナへカカオが流出するリスクを高めている』別の欧州系のトレーダーも警報をならす。

政府の財政が肝

昨年の大統領選挙後の争いは、バクボ大統領を追い出し、これまでカカオ産業が投資の根拠としてきた間違った生産数量統計データなどの負の遺産を終わらせ、今後は、カカオ産業からの税収入を確実に得ることが政府にとって重要な為、密輸防止は大きな課題である。

『大量の密輸は税金の未払いに繋がり、コートジの経済に悪影響を及ぼす影響がある、ただ、政府は丁度新しい産業のスキームへ移行している最中であり、密輸についても最初は様々な変更で忙しく対応が

困難ではあるかもしれないが、政府は最大限出来る限りこの改革を推し進めて継続するだろう。』欧州のトレーダーは語る。

密輸は常に存在しているものだが、得に昨年4カ月続いた内戦時期の時期はコートジの二つの港が封鎖されたこともあり、数多くの生産者がカカオ豆をガーナから北東方向に動かし、ブルキナファソを通過して、トーゴの港まで密輸しトーゴから輸出した。

業界では、コートジの2010/2011シーズンでは、公式の収穫数量は150万トンだが、実際には20万トンが非公式に密輸され、実際の収穫数量は170万トンほどあったと言われている。コートジでは、生産者からカカオを買付け、輸出者に販売する仲介業者は彼らの収益に満足しておらず、もう1つの選択肢としてより良い価格で販売できる他国への密輸も検討することが出来る。

『利益を失わない為に、仲介業者は他国に密輸することを更に今後考えるようになるし、どこの国がより良い価格で販売することが出来るのか、様々な他国の市場を探さようになるだろう』別の欧州のトレーダーは言う。

先月、コートジのコーヒー・ココア評議会(CCC)は政府から輸出者に払い戻しされる、生産者から港までの集荷、輸送コストを80CFA(\$0.16)/kgに設定すると発表した。これは輸出者(仲介業者)の求める94.2CFA(\$0.18)/kgには至っていない。

『たった80CFAでアビジャン港にココアを納めることは不可能だ、前シーズン、私はここからアビジャンまでカカオを運ぶのに少なくとも130CFAを要した』ガーナとの国境から僅か12kmはなれた地域の仲介業者は言う。

『私はおそらくガーナにカカオ豆を売ると思う、、、村の若い連中はバイクの後ろにカカオ袋を乗っけてガーナまで運ぶ。その方がアビジャンへ輸送するより安いんだ』

『この80CFA(\$0.16/kg)は、農園から、港までの全ての輸送費と、仲介業者の利益が全て含まれている価格だから低すぎるし、それに加えて、この国では輸送途中に警察や軍隊が道路で検問をしていて不正に我々の様な仲介業者のトラックから罰金を奪おうとしている』

『でも本当の問題は、ガーナの価格がいくらかではなく、世界市場の価格がいくらかだよ。もし仲介業者が受け取る収入に不満であれば、それは彼らがコートジのその外にカカオを販売する強い動機づけになってしまう。得にトーゴは、世界市場での取引価格に近い取引価格での取引がされているし』別のカカオトレーダーは指摘する。

2010/2011シーズンのトーゴのカカオ豆の年間輸出数量は12万トンだったが、トレーダー筋はトーゴの年間生産数量は毎年10万トン前後だと説明している。

***現在の連続シリーズの特集である『フェアトレード特集』は次回フェアトレードラベル・ジャパン様へのインタビューを予定しており、継続しておりますが、今週は引き続き、お休み致します。**

〈お問い合わせ先、配信希望または、停止のご連絡先〉

株式会社 立花商店 東京支店 生田 TEL03-5783-3545 w-ikuta@tachibana-grp.co.jp